

# 最小二乗法を用いた重回帰分析 Multiple Regression Analysis and Nonlinear Regression

大阪府立大学 工学研究科  
清水 悠生

# 最小二乗法で扱う誤差関数

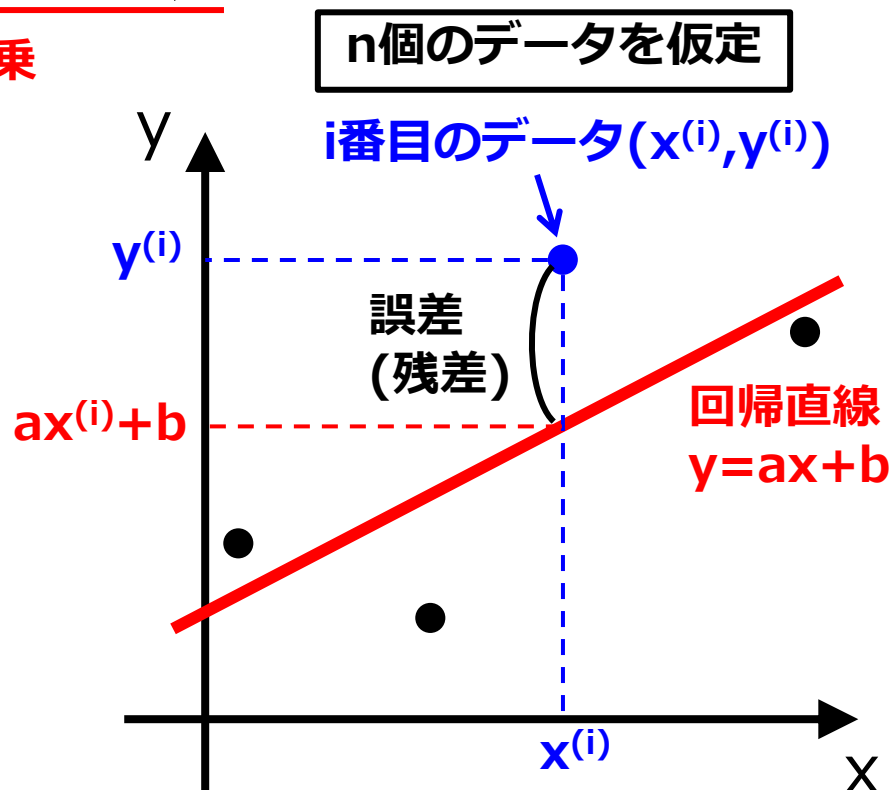
- ✓ 誤差関数を誤差の2乗の和とし, 誤差関数が最小となるような係数 $a$ ,  $b$ を計算する方法が最小二乗法

最小二乗法で扱う誤差関数 $E(a,b)$

$$E(a,b) = \sum_{i=1}^n \frac{1}{2} \left( y^{(i)} - (ax^{(i)} + b) \right)^2$$

$a$ と $b$ の  
2変数関数

誤差の2乗



# 単回帰分析の行列での表現

✓ 単回帰分析の場合は下式のように記述できる

$$\begin{aligned} y^{(1)} &= ax^{(1)} + b \\ y^{(2)} &= ax^{(2)} + b \\ &\vdots \\ y^{(n)} &= ax^{(n)} + b \end{aligned} \iff \begin{bmatrix} y^{(1)} \\ y^{(2)} \\ \vdots \\ y^{(n)} \end{bmatrix} = a \begin{bmatrix} x^{(1)} \\ x^{(2)} \\ \vdots \\ x^{(n)} \end{bmatrix} + b = \begin{bmatrix} x^{(1)} & 1 \\ x^{(2)} & 1 \\ \vdots & \vdots \\ x^{(n)} & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} a \\ b \end{bmatrix}$$
$$\iff \mathbf{y} = \mathbf{X}\mathbf{w}$$

このように行列を定義すると、誤差関数は下記のとおり

$$\begin{aligned} E(\mathbf{w}) &= \sum_{i=1}^n \frac{1}{2} \left( y^{(i)} - (ax^{(i)} + b) \right)^2 \\ &= \frac{1}{2} \left( \left( y^{(1)} - (ax^{(1)} + b) \right)^2 + \dots + \left( y^{(n)} - (ax^{(n)} + b) \right)^2 \right) \\ &= \frac{1}{2} (\mathbf{y} - \mathbf{X}\mathbf{w})^T (\mathbf{y} - \mathbf{X}\mathbf{w}) \end{aligned}$$

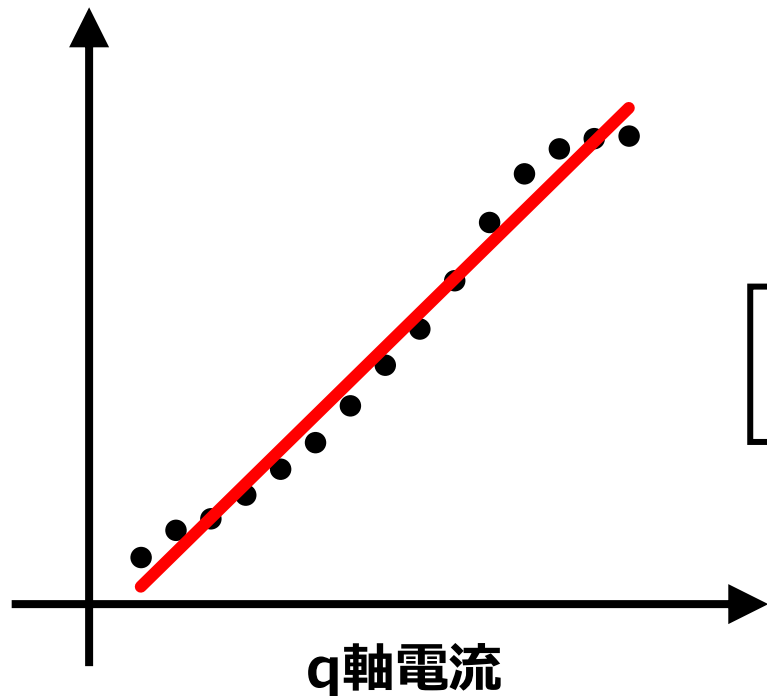
# 入力変数が一つとは限らない

- ✓ 回帰分析では入力変数(x)が一つとは限らない

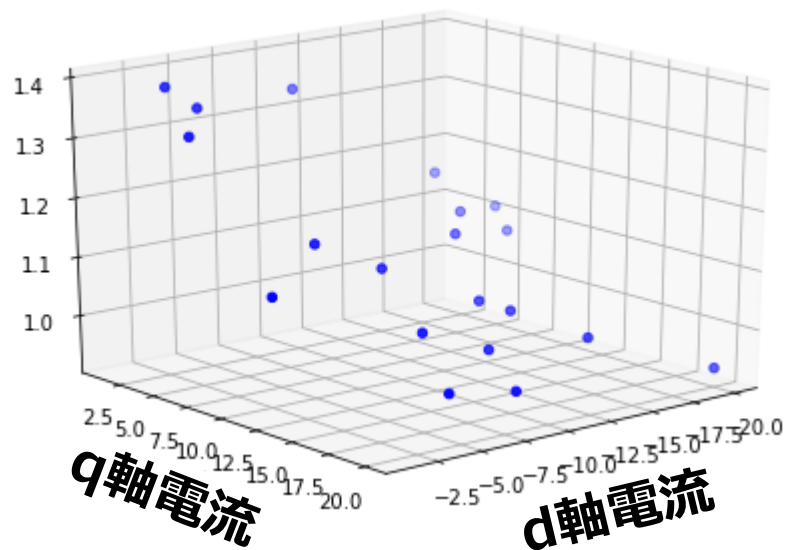
入力変数1つ+目的変数1つ=2次元

入力変数2つ+目的変数1つ=3次元

q軸インダクタンス



q軸インダクタンス



# 重回帰分析の行列での表現

✓ 重回帰分析(2変数)の場合は下式のように記述できる

$$\begin{aligned}y^{(1)} &= w_0 + w_1 x_1^{(1)} + w_2 x_2^{(1)} \\y^{(2)} &= w_0 + w_1 x_1^{(2)} + w_2 x_2^{(2)} \\&\vdots \\y^{(n)} &= w_0 + w_1 x_1^{(n)} + w_2 x_2^{(n)}\end{aligned}$$

$y^{(i)}$  :  $i$ 番目の目的データ( $i = 1, \dots, n$ )  
 $x_1^{(i)}, x_2^{(i)}$  :  $i$ 番目の2種類の入力データ  
( $i = 1, \dots, n$ )

$w_0$  : 学習する重み係数  
(単回帰の切片 $b$ に対応)

$w_1, w_2$  : 学習する重み係数  
(単回帰の係数 $a$ に対応)

$$\begin{aligned}\Leftrightarrow \begin{bmatrix} y^{(1)} \\ y^{(2)} \\ \vdots \\ y^{(n)} \end{bmatrix} &= w_0 + w_1 \begin{bmatrix} x_1^{(1)} \\ x_1^{(2)} \\ \vdots \\ x_1^{(n)} \end{bmatrix} + w_2 \begin{bmatrix} x_2^{(1)} \\ x_2^{(2)} \\ \vdots \\ x_2^{(n)} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & x_1^{(1)} & x_2^{(1)} \\ 1 & x_1^{(2)} & x_2^{(2)} \\ \vdots & \vdots & \vdots \\ 1 & x_1^{(n)} & x_2^{(n)} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} w_0 \\ w_1 \\ w_2 \end{bmatrix}\end{aligned}$$

$\Leftrightarrow \mathbf{y} = \mathbf{X}\mathbf{w}$  **行列で表現すると単回帰と一緒に！**

# 重回帰分析で扱う誤差関数

- ✓ 単回帰と同様に誤差関数を誤差の2乗の和とし  
誤差関数が最小となるような係数 $w_0, w_1, w_2$ 計算する

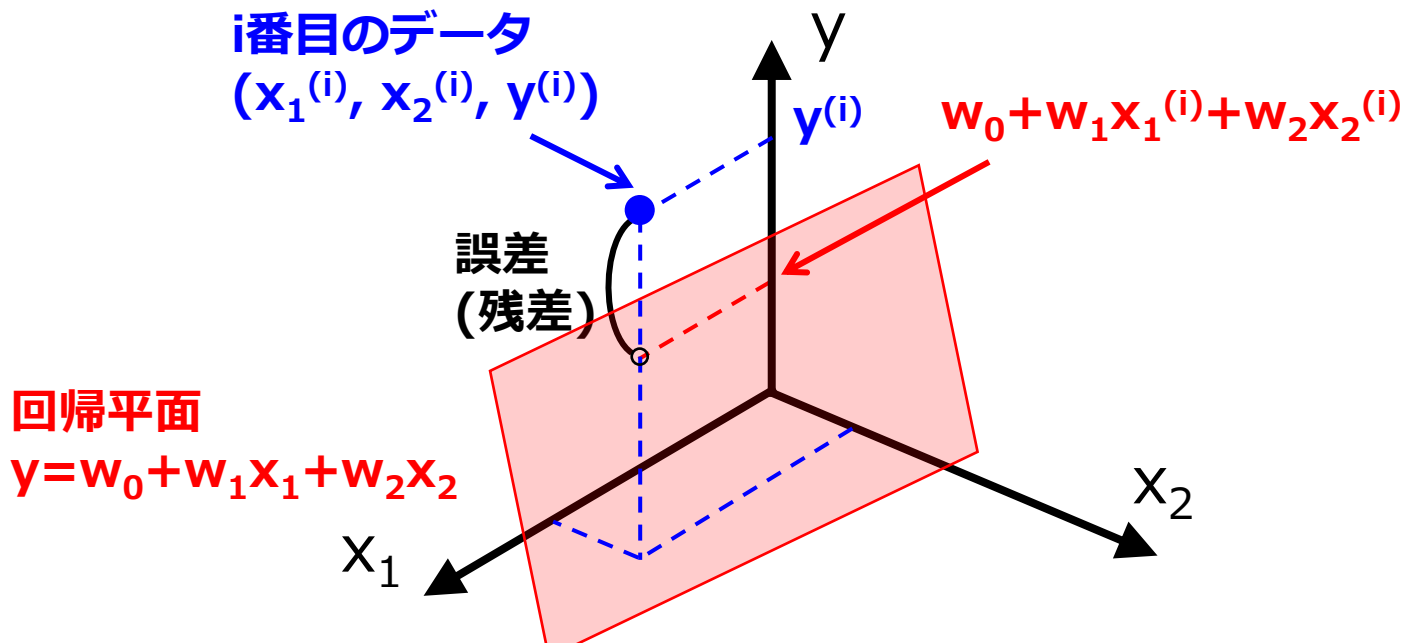
最小二乗法で扱う誤差関数 $E(w_0, w_1, w_2)$

$$E(w_0, w_1, w_2) = \sum_{i=1}^n \frac{1}{2} \left( y^{(i)} - (w_0 + w_1 x_1^{(i)} + w_2 x_2^{(i)}) \right)^2$$

$w_0, w_1, w_2$ の  
3変数関数

誤差の2乗

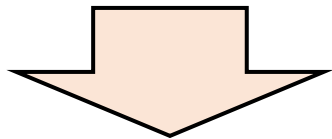
n個のデータを仮定



# 重回帰分析での最小二乗法の解

- ✓ 重回帰分析での最小二乗法の誤差関数は単回帰の場合と一致するため、同様の計算が可能

$$\begin{aligned} E(\mathbf{w}) &= \sum_{i=1}^n \frac{1}{2} \left( y^{(i)} - \left( w_0 + w_1 x_1^{(i)} + w_2 x_2^{(i)} \right) \right)^2 \\ &= \frac{1}{2} \left( \left( y^{(1)} - \left( w_0 + w_1 x_1^{(1)} + w_2 x_2^{(1)} \right) \right)^2 + \dots + \left( y^{(n)} - \left( w_0 + w_1 x_1^{(n)} + w_2 x_2^{(n)} \right) \right)^2 \right) \\ &= \frac{1}{2} (\mathbf{y} - \mathbf{X}\mathbf{w})^T (\mathbf{y} - \mathbf{X}\mathbf{w}) \quad \text{行列で表現すると単回帰と一緒に！} \end{aligned}$$



$$\frac{\partial}{\partial \mathbf{w}} E(\mathbf{w}^*) = 0$$

$$\Leftrightarrow \mathbf{w}^* = (\mathbf{X}^T \mathbf{X})^{-1} \mathbf{X}^T \mathbf{y}$$

$\mathbf{X}^T \mathbf{X}$ が正則（逆行列を持つ）と仮定

誤差が最小となる係数ベクトル

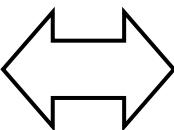
# 重回帰分析の一般化

- ✓ 入力変数がm種類の場合の重回帰分析は下式のように同じ行列形式で記述できる  
⇒ **最適解も前ページと同様の結果に!**

$$\begin{aligned}y^{(1)} &= w_0 + w_1 x_1^{(1)} + \dots + w_m x_m^{(1)} \\y^{(2)} &= w_0 + w_1 x_1^{(2)} + \dots + w_m x_m^{(2)} \\&\vdots \\y^{(n)} &= w_0 + w_1 x_1^{(n)} + \dots + w_m x_m^{(n)}\end{aligned}$$

$x_1^{(i)}, \dots, x_m^{(i)}$  : i番目のm(<n)種類の  
入力データ(i = 1, ..., n)

$w_0, \dots, w_m$  : 学習する重み係数


$$\begin{bmatrix} y^{(1)} \\ y^{(2)} \\ \vdots \\ y^{(n)} \end{bmatrix} = w_0 + w_1 \begin{bmatrix} x_1^{(1)} \\ x_1^{(2)} \\ \vdots \\ x_1^{(n)} \end{bmatrix} + \dots + w_m \begin{bmatrix} x_m^{(1)} \\ x_m^{(2)} \\ \vdots \\ x_m^{(n)} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 & x_1^{(1)} & \dots & x_2^{(1)} \\ 1 & x_1^{(2)} & \dots & x_2^{(2)} \\ \vdots & \vdots & \dots & \vdots \\ 1 & x_1^{(n)} & \dots & x_2^{(n)} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} w_0 \\ w_1 \\ \vdots \\ w_m \end{bmatrix}$$

$$\Leftrightarrow \mathbf{y} = \mathbf{X}\mathbf{w} \Rightarrow \mathbf{w}^* = (\mathbf{X}^T \mathbf{X})^{-1} \mathbf{X}^T \mathbf{y}$$

**誤差が最小となる係数ベクトル**



# 解が求められない場合 (1/2)

- ✓ 入力変数 $x_2$ が入力変数 $x_1$ の3倍である場合を考える

$$\mathbf{X} = \begin{bmatrix} 1 & x_1^{(1)} & 3x_1^{(1)} \\ 1 & x_1^{(2)} & 3x_1^{(2)} \\ 1 & x_1^{(3)} & 3x_1^{(3)} \end{bmatrix}, \mathbf{X}^T = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ x_1^{(1)} & x_1^{(2)} & x_1^{(3)} \\ 3x_1^{(1)} & 3x_1^{(2)} & 3x_1^{(3)} \end{bmatrix}$$

- ✓  $\mathbf{X}^T \mathbf{X}$ を計算すると次式のとおり

$$\mathbf{X}^T \mathbf{X} = \begin{bmatrix} 1+1+1 & x_1^{(1)} + x_1^{(2)} + x_1^{(3)} & 3x_1^{(1)} + 3x_1^{(2)} + 3x_1^{(3)} \\ x_1^{(1)} + x_1^{(2)} + x_1^{(3)} & (x_1^{(1)})^2 + (x_1^{(2)})^2 + (x_1^{(3)})^2 & 3(x_1^{(1)})^2 + 3(x_1^{(2)})^2 + 3(x_1^{(3)})^2 \\ 3x_1^{(1)} + 3x_1^{(2)} + 3x_1^{(3)} & 3(x_1^{(1)})^2 + 3(x_1^{(2)})^2 + 3(x_1^{(3)})^2 & 9(x_1^{(1)})^2 + 9(x_1^{(2)})^2 + 9(x_1^{(3)})^2 \end{bmatrix}$$

- ✓  部は  部を3倍したベクトルであり  
 $\mathbf{X}^T \mathbf{X}$ が正則でない (逆行列を持たない) ことがわかる

## 解が求められない場合 (2/2)

- ✓  $X^T X$ の逆行列を求められない場合は  
最小二乗法の解を求めることができない

$$X^T X w^* = X^T y \Leftrightarrow w^* = \underbrace{(X^T X)^{-1}} X^T y$$

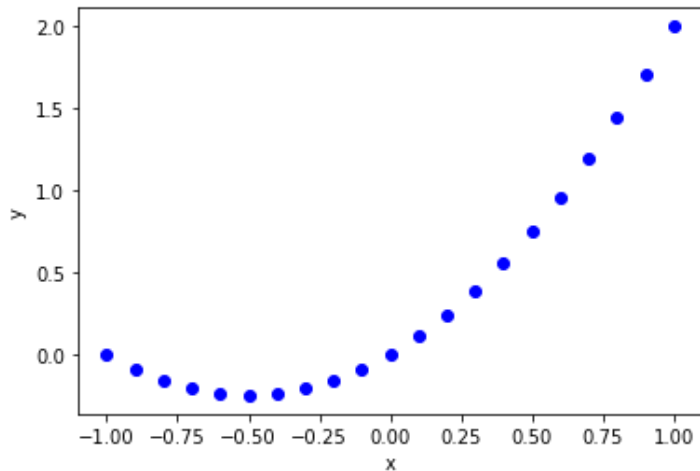
**逆行列が必須！**

- ✓ このように入力変数間における線形従属性のことを  
**共線性**と呼び、共線性が複数存在する場合は  
**多重共線性 (マルチコ, Multicollinearity)** と呼ぶ
- ✓ 多重共線性が存在する場合、 $X^T X$ の逆行列が $\infty$ に  
発散するため係数ベクトルを求めることができない

# 非線形な回帰分析

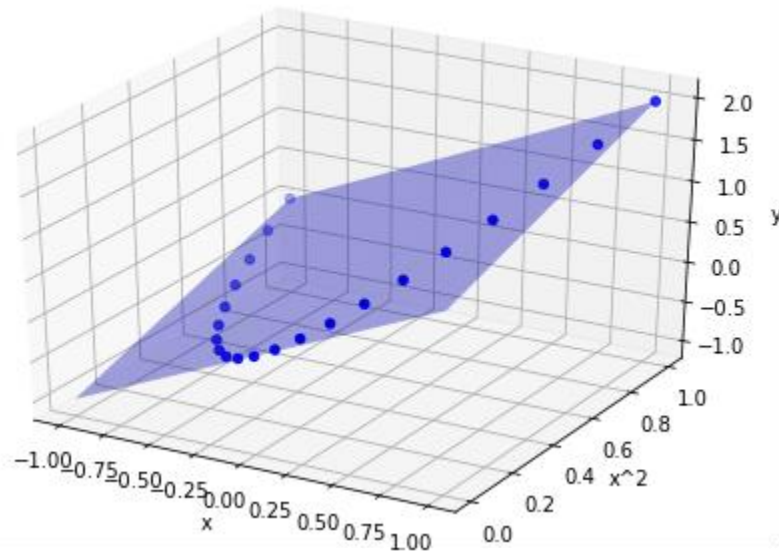
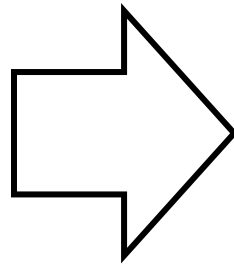
- ✓ 入力変数を高次元の空間に拡張することを**非線形写像**という
- ✓ 各データに適した非線形写像を行うことで線形結合のみで様々な関数を表現可能となる

**$y=x^2+x$ の例**



**x,yの2次元平面上では  
非線形(曲線)**

非線形写像：  
 $x \mapsto x^2 + x$

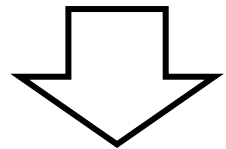


**x,x<sup>2</sup>,yの3次元空間上では  
線形(平面)に！**

# 非線形回帰分析の例

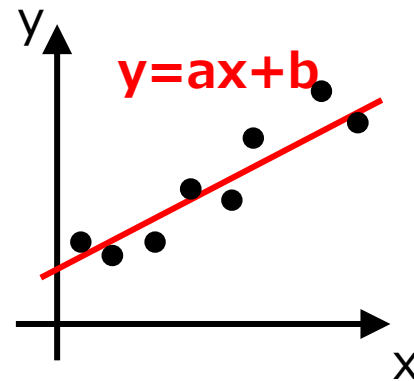
- ✓ 非線形な回帰分析を行いたい場合は例えば下記のような例が考えられる
- ✓ 下記の例は**全て行列表現すると線形回帰分析と同じ**標記
- ✓ これまでと同様に誤差関数の最小化により回帰係数を算出すればよい

$$y = ax + b$$



非線形写像:  $x \mapsto \phi(x)$

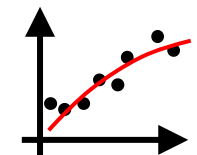
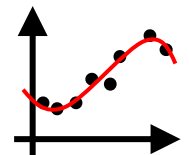
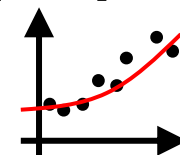
$$y = \begin{cases} w_0 + w_1x + w_2x^2 + w_3x^3 \\ w_0 + w_1 \exp(x) \\ w_0 + w_1 \log(x) \end{cases}$$



多項式回帰(3次)

指数回帰

対数回帰



# 線形回帰と同じ行列表現ができない場合

- ✓ 下記のような非線形回帰では  
線形回帰分析と同じ行列表現ができない

$$y = \begin{cases} w_0 + w_1 \exp(w_2 x) \\ w_0 + w_1 x^{w_2} \end{cases}$$

- ✓ この場合は同様に誤差関数の最小化計算を行えばよい
- ✓ ただし、解析的に誤差関数の最小化を計算できない場合もあるため、その時はニュートン法などを用いて数値的に最小解を求める